

電子地形図25000

測量法に基づく国土地理院長承認 (使用) R 3JHs 903

京都東北部

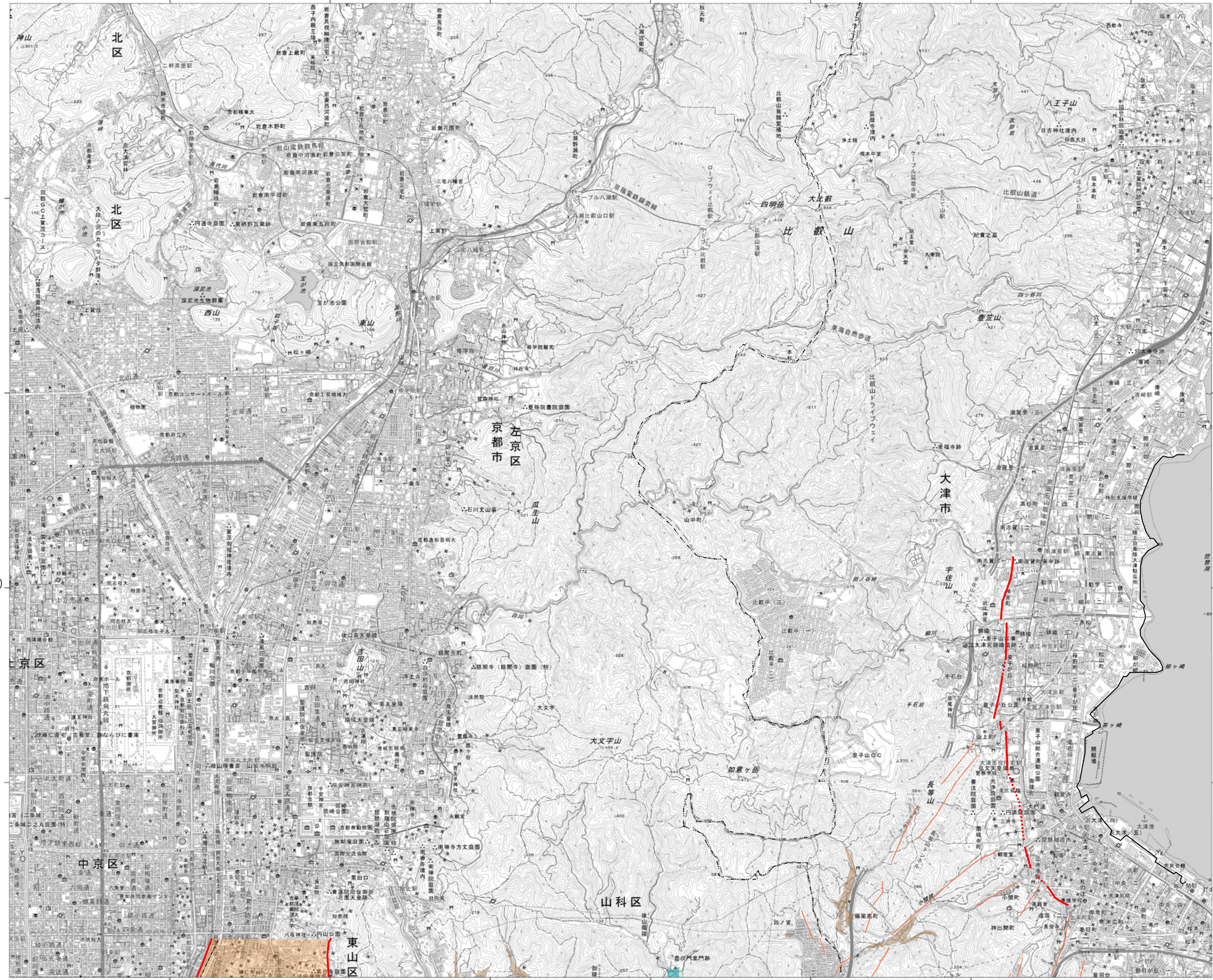
135° 45' 0.00"
35° 5' 0.00"

135° 52' 30.00"
35° 5' 0.00"

- ### 活構造凡例
- 活断層 (地表に破断変形生じる可能性大)
 - 伏在活断層 (変位基準なし・地表に破断変形生じる可能性大)
 - 推定活断層 (第四紀後期の活動未確定・地表に破断変形生じる可能性あり)
 - 活背斜 (地表に背斜 (引張) 変形生じる可能性大)
 - 活向斜 (地表に向斜 (圧縮) 変形生じる可能性大)
 - 活撓曲 (幅数10m~数100mの傾動が生じる可能性大)
 - 伏在活撓曲 (変位基準なし・幅数10m~数100mの傾動が生じる可能性大)
 - 推定活撓曲 (第四紀後期の活動未確定・幅数10~数100mの傾動が生じる可能性あり)
 - 傾動帯 (幅数100m以上の傾動変形生じる可能性大)
 - 傾動方向 (矢の方向に傾き下がる)
 - リニアメント・古期断層 (地表に断層変位をもたらす可能性低い)

- ### 調査項目凡例
- 地形断面位置
 - 反射法地震探査測線
 - 断層
 - 傾斜変換点
 - トレンチ調査地点
 - 調査ボーリング地点重要露頭

- ### 地形凡例
- 1930~40年代の水部 (ため池など: その後埋め立てられたもの・現水部を含む)
 - 旧河道 (埋め立てられた川の跡)
 - 自然堤防および破堤地形 (堆積) (洪水時に土砂が堆積した微高地)
 - 天井川 (歴史時代に形成された周囲より河床が高い川)
 - 緩斜面 (土石流堆積物などが堆積して作られた斜面)
 - 低位5面 (完新世後期=数千年前に降にできた段丘)
 - 低位4面 (完新世=約1万年前に降にできた段丘)
 - 低位3面 (更新性末期=約1.5万年前ごろにできた段丘)
 - 低位2面 (後期更新世後期=約2万年前ごろにできた段丘)
 - 低位1面 (後期更新世中期=約4万年前ごろにできた段丘)
 - 中位2面 (後期更新世前期=約8万年前ごろにできた段丘)
 - 中位1面 (後期更新世初頭=約10~12万年前にできた段丘)
 - 高位2面 (中期更新世後期=約20万年前ごろにできた段丘)
 - 高位1面 (中期更新世=数10万年前にできた段丘)
 - 地すべり地形 (過去の地すべりによって作られた斜面)



記号

4車線以上	電子基準点	特別標高点
2車線幅員13m以上	三角点	標高点
2車線幅員12m未満	水準点	
1車線道路	市役所	神社
幅員3.0m未満の道路	町村役場	寺院
徒歩道	歩道	高塔
高速道路	官公署	風車
国道及び国道番号	裁判所	風車
都道府県道	税務署	油井・ガス井
有料道路	消防署	灯台
庭園路	保健所	坑口
石段	警察署	温泉
	交番	噴火口・噴気口
	郵便局	採鉱地
	小・中学校	城跡
	高等学校	交差点・名所
	病院	天然記念物
	博物館	港
	図書館	漁港
	老人ホーム	記念碑
	電波塔	自然実習場
		発電所・変電所

田	竹林
畑	ヤシ科樹林
茶畑	ハイマツ林
果樹園	草地
所産果界	広葉樹林
特定地区界	荒地
送電線	針葉樹林

普通建築物
変り建築物
高層建築物
無蓋倉庫等

立体交差
基礎
分離帯
ダム
地下の水路
流路の水路
水門

溜池
砂れき地
干涸
土がけ
崩れ
岩がけ
岩
隠岩
万年雪

1. 投影はユニバーサル横メルカトル図法、座標帯は第53帯、中央子午線は東経135°
2. 図郭に付した短線は経緯度差1分ごとの目盛
3. 高さの基準は東京湾の平均海面
4. 等高線及び等深線の間隔は10メートル
5. 磁気偏角は西偏約7° 30'
6. 図式は平成24年電子地形図25000図式

135° 45' 0.00"
35° 5' 0.00"

135° 52' 30.00"
35° 5' 0.00"